日本キリスト教団 **東金教会〔１７〕**

２０１８年４月２９日 復活節第５主日礼拝

年度目標　《繋がれて生きる》

聖　句　わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。　ヨハネ福音書１５章５節

【礼拝式次第】

司式	藤田	
奏楽	阿部	
受付	王	
案内	安延	
名札係	中村	
礼拝感謝祈祷	〃	〃 王

前奏		
讃美歌	１４９	一同
使徒信条	５６６	〃
交読文	１５	司・会衆
主の祈り	５６４	一同
聖書	ヨハネ福音書１５:１～８	司会者
祈祷		藤田
新聖歌	３１０	一同
み言葉の伝え	「わたしとつながっている」	梅田
讃美歌	３５９	一同
献金		
礼拝感謝		中村
〃 〃		王
報告		藤田
頌栄	５４１	一同
祝祷(派遣)		梅田
後奏	新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会　５月２日(水)午後7時半～
早天祈祷会　月-金7時(除祭日)メーヤー館
聖書輪読会　５月６日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会　５月６日(日)10:25-10:30

【報告】

☆本日の講壇は梅田　　先生にお守り戴きました。ご奉仕ありがとうございました。
☆ペンテコステのご案内が週報棚に入っております聖霊なる神のお働きを意識してこの時を過ごしたく思います。
☆４月２３日にもたれました千葉支区総会は前年と比べ大きな変化なく（但し書記は矢吹　　教師より原田　　教師に変更）無事終えることを得ました。
☆明４月３０日(昭和の日の振替休日)は教会学校ハイキングを予定（場所…昭和の森公園）しております。ご参加下さる方は当日午前９時２０分までに教会に集合下さい。
☆５月１３日は教会総会がございます。又、次週６日は総会資料作成日です。宜しくお願い致します。
☆５月１３日教会学校では母の日礼拝を持ちます。ご加祷下さい。
☆５月２０日はペンテコステ（聖霊降臨日）です。主イエスのご復活後、５０日を経て聖霊が下り、主の教会が誕生したと聖書は語ります。私たちの教会の誕生を覚え献金を献げ下さい。

【東金教会定期総会公告】

日時…２０１８年５月１３日礼拝後
場所…東金教会会堂
議事…長老選任の件
　　その他

【教区・支区・分区報告】

○東総分区牧師会　5/1(月)10時30分～
　於・九十九里教会

【４月２９日～５月５日の誕生者】

○三枝　　姉
※おめでとうございます。主に繋がる枝々であることを覚え、皆で祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(4/22)	１５	３４	４９
聖研祈祷会(4/25)	２	５	７
聖書輪読会(4/22)	２	６	８
教会学校(4/22)	１０	２４	３４
山田台集会(4/24)	５	６	１１

早天祈祷会 日	男	女	計
4/23	１	２	３
4/24	１	２	３
4/25	１	２	３
4/26	１	２	３
4/27	１	２	３

主日礼拝献金(４/15)……３２,０００円
教会学校献金(４/15)……７,７０５円

【今日のメッセージ】

題　［わたしとつながっている］
聖　書　ヨハネ福音書１５:１～８
１・訣別説教として

２・いのちの関係として

３・主の晩餐の象徴として

【次週(５月６日)礼拝案内】

題　「いのちの言葉をしっかり保つ」
聖　書　フィリピ書2:１２～１８
交読文　１６
讃美歌　１３番　５０１番　５０８番
新聖歌　３５３番

【次週(５月６日)礼拝当番者】

御言葉の伝え	中村征一郎
司式者	藤本
奏楽者	中里
受付者	王
案内者	三枝
名札当番	藤田
礼拝感謝祈祷	王
〃 〃	寺内
csお話し	朴
会堂清掃者	幼稚園教諭
〃 〃	
花係	小林
看板書き	澤本

【聖書から】

「かえって自分を無にして、僕の身分となり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」

フィリピ書二章七、八節

キリストはご自分を無にされた、とパウロは語る。しかし自分を無にするなどと言うことは人には到底できないことだと思う。試みに自分の有り様を考えてみると良い。わたしたちは自分を無にした経験を持つか。例えば愛する者のために自分の身を犠牲にしてもかまわない、と思ったことがあるか？、そう問われたらある人は「有る！」というかもしれない。けれどもある特定の人のために、そして凡ての人間のために自分をかえりみることなく、命を捧げることができるかと問われたならばこれは難しい。自分を無にするとは字義通りに解釈するならば自分の内に何の思惑も持たないと云うことである。自分のプライド、生命を失う怖れの心、自分の身の安全安泰、自分の評価を求める心、自分の精神的、身体的欲求：、そう言った一切を無にする。ただし無にするとは空にするということではない。人が生命体として生を受け、命を重ねて生きるとき、その外形だけが存在し、殻だけで中身が一切ないと言うことはありえない。そうではなく、己が考え、経験してきたものに固執しない。その凡てを、何時でも捨て去ることができる、というこのようなことができたかと言えば、彼にとって最終的な執着点が己の尊厳が彼の守るべき最終的帰着点であろう。イエスはそれを為されて来た。なぜそのようなことができたかと言えば、彼にとって最終的なものであった。それ以上のものがあるべきものでなかった。彼の最終的帰着点は神であられた。神のご命令に従って生きる。そのご命令は我らに対してもイエスに続いてお主イエスと同じように成れ、と言われる。そしてこの心を揺るがずに持ってあられた。けれども主イエスと同じように成れようはずはない。その心が信仰の心だと思う。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。